

◆最近の農産物や水産物の放射性物質検査

地方公共団体は、食品の放射性セシウムの検査を行っています。安全性の基準値を超える可能性のある地域・品目は、特に検査を強化しています。

原子力災害対策本部により検査対象とされている17都県（東北6県、関東7都県、新潟、山梨、長野及び静岡）の平成25年度（平成26年3月31日時点）の検査では、野菜、果実で放射性セシウム基準値（100 Bq/kg）を超える数値は検出されていません。

水産物では、平成25年度の検査において、2万点を超える検査のうち、放射性セシウム基準値を超えたのは302点でしたが、そのほとんどがカレイ・ヒラメなどの底魚や養殖以外の淡水魚です。これらは全体の1.5%にすぎず、市場に流通しないための措置が採られています。

品目	検査点数	放射性セシウム量 (Bq/kg)		
		50以下	50~100	100超
野菜※	19,657	19,655	2	0
果実	4,243	4,215	28	0
水産物	20,695	19,879	514	302

※タケノコ、わさびは「きのこ・山菜類」に含まれます。

わかめの放射性物質検査データの396件（うち岩手県161件）※のうち、基準値（100Bq/kg）を超えるものはありません（※国立保健医療科学院が厚生労働省公表の放射性物質の検査結果に基づき整理した情報。平成26年6月3日時点）。

◆わかめ生産の復興状況

岩手県のわかめの養殖は、日本一の生産量を誇りますが、今回訪問した田老町漁業協同組合では、東日本大震災の津波により多くの漁船が失われ、最も力を入れていたわかめの養殖施設や加工場等の施設も失われました。

田老町漁協では、組合員が一丸となって海のがれきを撤去し、新たな養殖施設を設置するなどして、平成23年10月に新しい養殖施設にわかめの養殖縄を設置し、操業を再開しました。その結果、養殖わかめの生産量は8割程度まで回復しましたが、販売先の減少や原発事故に伴う風評被害等により、価格と取引量は震災前と比べて大きく低下したままとなっています。



◆田老町漁協のブランド「真崎わかめ」

岩手県宮古市田老地区の海域には、北から栄養塩が豊富な魚や海藻類を養い育てる親に当たるといわれる親潮、また、津軽暖流、黒潮などの海流がプランクトン、各種ミネラル及び栄養分を注ぎ込みます。この天然漁場から採取した種苗を天然わかめが育つ環境に限りなく近づけた沖合の養殖場で生産されるのが「真崎わかめ」です。



原藻全てを自営加工場で買い取り、加工、販売まで行っています。肉厚で歯ごたえがあり、風味も良く、高い評価を受けています。平成20年に、わかめでは唯一、地域団体商標として登録されました。

日本一のわかめ産地の復興に向けて

～岩手県宮古市田老町漁協の取組～



“東北未来がんばっぺ大使”の秋吉久美子さんが大津波で被災した岩手県宮古市のわかめ生産者を平成26年5月に訪問し、交流・対談しました。

食品の風評被害防止に向けて



## 秋吉大使と田老町漁協の生産者との対談



**小林 昭榮さん** 田老町漁業協同組合の代表理事組合長さん。これまで漁協復興の舵取りをされてこられた。



**田沢 一男さん** 田老町漁業協同組合養殖組合連合会の会長さん。漁協のわかめ生産グループの代表。



**鳥居 高博さん** 田老町漁業協同組合 JF たらう加工場の工場長さん。加工場の復興に奔走。

**おいしいわかめの見分け方とかあるのでしょうか。(秋吉さん)**

**田沢さん** 横一列にぶら下げた時、それぞれのわかめの葉が肉厚で濃い深緑色をしていることです。また、荒波で育つわかめは彫り込みの深い葉状となり艶が出ます。

**秋吉さん** ほんと。だから「真崎わかめ」はおいしくてブランドとして認められたのですね。わかめは、低カロリーですからダイエット食にも適していますし、ミネラルも豊富です。わかめは主菜でもいいですよ。

**最近「復興支援はもうそろそろ」という気持ちが感じられてしまうような気もしますが。(秋吉さん)**

**小林さん** 震災後1年が経過した平成24年から、わかめの操業を再開できましたが、その当時は、今年の倍の価格が付いていました。良い価格が付いて

くれたなど喜んでいましたが、震災後2年、3年と経過するにつれ、価格が下がっています。

**秋吉さん** 震災後1年目は、「がんばれ」という応援の意味もあったのでしょうか。

**小林さん** 震災後1年で操業を再開した時点では、既に放射能の問題も起きていたわけで、むしろ今より風評は大きかったと思います。それでも、わかめは高い価格で売れたのです。それが今年は、操業再開の年の半値近くになってしまっています。昨年から見ると2割減です。

**秋吉さん** これからは持久戦と思って、一時の勢いだけじゃなくて、対策をしっかり積み上げていかなければいけないのだと思います。逆に言えば、風評を忘れてくれるという点もあるかもしれませんが、ブランド化を推進しているこのわかめをもう一度、力を入れて全国に知らしめる、今がその時のように思います。

**「やはり、三陸のわかめはおいしいな。」という声を上げてもらいたいと思っています。(鳥居さん)**



**鳥居さん** 震災直後、三陸わかめの出荷が一時停止したため、他の産地に取引先や売場を切り替え、それが定着していることも売上げが伸び悩んでいる要因のようです。ですから、消費者の方々に

「やはり、三陸のわかめはおいしいな。おいしいな。」という声を上げてもらえれば、販売する方々も「それなら再び仕入れを三陸に戻そ

うか」ということになるのではないかと考えています。

**まだ、負けたくないぞって。強いぞって(秋吉さん)**

**小林さん** この地区には1,090世帯が暮らしていたのです。このうち、917世帯が津波で流されてしまいました。防潮堤を越えて津波がやってきてしまったのです。



**秋吉さん** ここに大きな集落、町があったのですね。これから、長い取組が始まるのですね。でも、東北の人は、微笑みながら「大変だよ」とおっしゃいますよね。

**小林さん** そうですね、内面的には強い人間なのだと思いますね。ここ宮古市田老地区は、明治29年も、昭和8年も大津波で全滅しています。そして今回も。そのたびに立ち上がってきた。田老に限らず、岩手の漁民は強いと思いますね。

